【特集2】

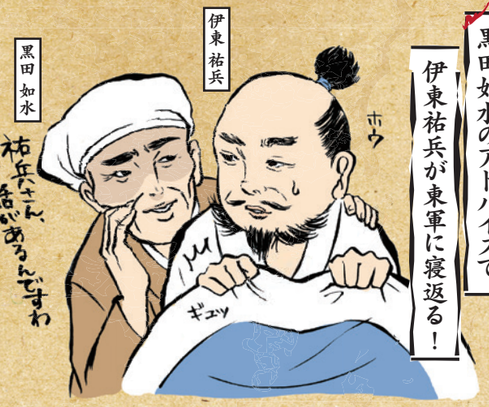
稲津掃部助物語

INAZU KAMONNOSUKE

もう一つの関ヶ原

ときは戦国時代。日向の覇権を争った伊東氏と島津氏の戦いで、7か月にわたって大勢力である島津氏と互角に渡り合った、勇猛果敢な一人の武将がいました。清武城主・稲津掃部助（以下、掃部助）その人です。彼がたどった、数奇な生涯を追いました。

黒田如水のアドバイスで伊東祐兵が東軍に寝返る！



掃部助が仕えていた飫肥藩主・伊東祐兵は、関ヶ原の戦いで西軍につきました。しかし、重病を患っていた祐兵は出陣せず、「帰国して西軍を攻めるべし」との黒田如水の勧めで東軍に寝返ります。25歳の若さで家老となっていた掃部助に、宮崎城攻めを命じました。

－黒田 如水(官兵衛)－
豊臣秀吉の参謀として名高い名将。関ヶ原の戦い時は拠点を置いていた九州で勢力を拡大。天下を狙おうとしたという説もあります。

－伊東 祐兵－
初代飫肥藩主。豊臣秀吉の九州攻めを先導した功績が認められ、かつての領地飫肥を取り戻して初代飫肥藩主となりました。

徳川への忠誠を誓って宮崎城を奪還

宮崎城には、西軍についていた延岡藩主・高橋元種の家臣、権藤種盛がいました。種盛は延岡に援軍を要請しますが、延岡はこれを拒否。籠城を余儀なくされた種盛を掃部助は破り、宮崎城を落としました。

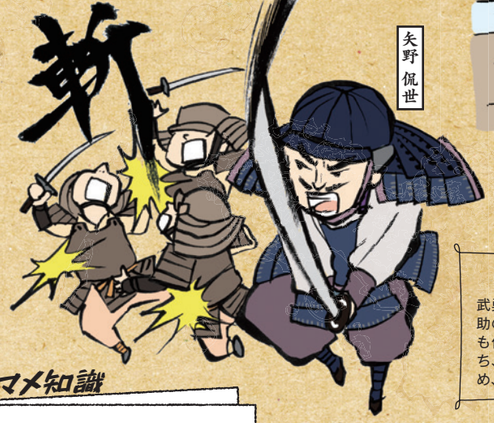
宮崎城は、現在の池内町にあった山城。現在は地元の人により案内板が立てられています。

－権藤 種盛－
高橋元種に長年使えた老臣。関ヶ原への出兵で余裕がなかった延岡藩から援軍を得られず、種盛軍は2人の息子とともに全滅しました。

宮崎城を手に入れた掃部助 島津氏と激突！

宮崎城を奪い返した掃部助は、古城や細江などに陣を構えます。対する島津も、尼ケ辻（現在の天ケ城）に新たに城を築くなどして対抗。掃部助はかつて伊東氏の城だった佐土原城を奪還しようと、島津氏と激しく交戦しました。兵力は圧倒的に島津氏が上回っていたにもかかわらず、掃部助は家来たちの奮闘もあって、互角に渡り合いました。

－矢野 侃世－
武勇に長けたとされる掃部助の家来。島津勢の総攻撃も侃世が瓜生野で迎え撃ち、撃破。逆に穆佐に追い詰め、島津勢を苦しめました。



戦いの末、島津氏と伊東氏は、船引神社（現在の清武町）で和解。宮崎城を落とし、さらに佐土原や高岡などを攻め続けた掃部助の武勇は、広く知れ渡りました。

漫々橋（びたびたばし：現在の日章学園付近）では、島津の追撃を受けた伊東勢の6人の武将が果敢に反撃。飫肥で「漫々橋の六本槍」と称えられたそうです。

宮崎城は高橋氏に返還 掃部助にまさかの…！

戦いを経て和解した伊東氏と島津氏でしたが、実は掃部助が宮崎城を攻め落とした時点で高橋氏は東軍に寝返っていました。祐兵の息子・祐慶が徳川家康の命に応じて宮崎城を高橋氏に返還する際、祐慶は掃部助に宮崎城を攻めた責任を取るよう命じます。若くして家老に就くなど活躍していた掃部助を、かねてから掃部助と仲が悪かったとされる祐兵の妻・松寿院がねたみ、祐慶と仕組んだことといわれています。切腹を命じられた掃部助は清武城に籠城して抵抗しますが、最後は自害。29年の早すぎる生涯を終えました。

－伊東 祐慶－
関ヶ原の戦いの年に病死した父・祐兵の跡を継ぎ、2代藩主に。島津氏との領地争いの際は、有利な解決を導くなど、手腕を発揮しました。

掃部助マメ知識

悲運の最期を遂げた掃部助。元は小姓（身分の高い人に仕える少年のこと）として祐兵に仕えたといわれています。25歳で家老になり、清武城主を務めたのですから、優れた人物だったことは明らかでしょう。

しかし、掃部助について書かれた書物のほとんどは、敵である島津氏や、すべての責任を負わせた伊東氏によって書かれたもので、悪者として描かれているケースが大半です。掃部助の側から書き残された書物が存在しないことこそが、掃部助の本当の悲劇とも言えます。

文化財課 主査
竹中 克繁

[問]文化財課　☎21-1836、FAX21-1840

掃部助を支えた知将はあの人のご先祖様!?

掃部助が島津勢と互角に戦えたのは、地勢や敵の心理を知り、敵側に情報提供者を作るなど、知略に長けた安井相右衛門がいたからといわれています。名字でピンと来る人もいる通り、相右衛門は儒学者・安井息軒の9代前の先祖です。

穆佐城跡。県内でも最も古い時期からある山城です。

穆佐城は動乱の舞台だった!?

南北朝時代は足利尊氏の所領、戦国時代は伊東氏と島津氏の争いの舞台でもあった有名な山城（天守はなく、山を切り盛りして築いた城のこと）です。遺構が良好な状態で残っており、古銭や陶器、鉄砲玉などが出土しています。

佐土原城には天守があった!?

佐土原城の本丸跡では、天守台（城の中の中心的な櫓を支える石組み）や鯱瓦が発見され、南九州で唯一天守を持つ城だったことが分かっています。鯱瓦の表面には、かすかに金箔が残っています。

佐土原城跡。江戸時代は城下町として栄えました。

掃部助の妻・雪江は夫を思い引き返した!?

伊東祐慶に切腹を命じられた掃部助は妻・雪江の身を案じ、飫肥に帰るよう伝えます。城を出て帰途に就いた雪江でしたが、夫を案じ、城に戻って一緒に自害したそうです。このとき、雪江はまだ15歳だったとも言われています。

清武城跡には、掃部助と雪江の墓が残されています。

PROFILE

稲津 掃部助（いなづ かもんのすけ）

若くして飫肥藩初代藩主・伊東祐兵に才能を見出され、25歳で家老に抜てき。豊臣秀吉の朝鮮出兵にも参陣しました。